

# GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

## 1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
b.	分類	低炭素水素等
	対象	アンモニア
c.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等

## 2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	対象製品が有するGX価値を積極的に評価したうえで、合理的な価格と安定供給体制が確立された水素を発電用燃料として活用していく。

b.	アンモニア
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	対象製品が有するGX価値を積極的に評価したうえで、合理的な価格と安定供給体制が確立されたアンモニアを発電用燃料として活用していく。

c.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	対象製品が有するGX価値を積極的に評価したうえで、社有車の環境負荷低減を目指し、積極的に電気自動車を導入する。

### 3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

### 4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

c.	電気自動車等
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2021年度
目標削減率	7%
削減目標における選択対象の位置づけ	社有車に電気自動車等を導入することにより、ガソリン使用量（Scope 1）を削減します。

### 5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

c.	電気自動車等
目標年度	2030年度
定量的目標	100%
選択対象に関する定量的目標の概要	社用常用2WD車（緊急用車両や高所作業車等の特殊車両は除く）について2030年度電気自動車導入率100%にすることを目標にします。

### 6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年 6月 4日

北陸電力株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員 松田光司